

(案)

# 第3次白老町社会教育中期計画

生涯を通じて、自ら学び続ける人の多様な学びを推進します



(令和3年度～令和10年度)

令和3年3月

白老町教育委員会

# はじめに

白老町教育委員会では、「白老町総合計画」及び「白老町教育推進基本計画（白老町教育大綱）」に基づきながら社会教育事業の推進を図ってまいりました。このたび、第3次白老町社会教育中期計画を策定するにあたり、これまで推進してきた計画の方向性を振り返り、様々な施策の成果や課題を確実に押さえ、町民ニーズや地域が抱える課題をしっかりと捉えた中で、白老町社会教育委員会における審議をもとに改訂作業を進めてまいりました。

これまで、本町の社会教育行政におきましては、地域住民が生涯にわたり主体的に文化、芸術、スポーツなどの学習活動への参加を促すため、社会教育施設における活動や社会教育関係団体への支援を通して、町民の学習機会の拡充や学習環境の整備に努めてきました。その結果、町民一人ひとりの知識・技術の習得を始め、心の豊かさや生きがいの発見等を創出してきました。しかし、人口減少時代の到来により団体活動の担い手が減少しており、地域住民が主体となって多様な事業を継続することが困難になってきました。

また、令和2（2020）年7月にアイヌ文化復興の拠点となる民族共生象徴空間（ウポポイ）がポロト湖畔に開業しましたが、本町ではこれを機に、多様な文化への理解や学びを促進する生涯学習の充実に取り組み、多文化共生のまちを目指すことが重要です。

社会を取り巻く環境は大きく変化しておりますが、本計画の基本方針である「生涯を通じて、自ら学び続ける人の多様な学びを推進する」ことを念頭に、本町の誇る歴史的遺産と豊かな自然環境などを最大限に活用して、更なる取組を展開していきたいと考えております。

最後に、本計画の策定にあたり、多大なるご尽力を賜りました白老町社会教育委員の皆様をはじめ、社会教育に関する聞き取り調査を通じて貴重なご意見やご提言をいただきました皆様に心より感謝申し上げます。

令和3年3月

白老町教育委員会教育長 安藤 尚志

# 目 次

はじめに

目次

第1章 計画の基本的な考え方	1
第2章 社会教育を取り巻く環境の変化	2
1 人口減少と少子高齢化の進展	
2 技術革新とグローバル化の進展	
3 多様な主体との連携	
4 子供たちをめぐる環境の変化	
5 安全・安心に対する意識の高まり	
6 芸術文化活動・スポーツへの関心の高まり	
第3章 基本方針	4
第4章 重点目標	4
第5章 具体的な推進施策	4
1 青少年教育の推進	
2 成人教育の推進	
3 高齢者教育の推進	
4 社会教育施設・スポーツ施設の整備・活用	
5 社会教育活動の推進	
6 芸術文化活動の推進	
7 文化財の保存・活用	
8 読書活動の推進	
9 スポーツ・健康増進活動の推進	
10 青少年の健全育成	
11 地域連携による教育活動の推進	
参考資料	16
1 社会教育関係団体からの聞き取り調査	
2 社会教育委員会でのグループワーク	
3 諮問書	
4 答申書	
5 審議経過	
6 社会教育委員・事務局名簿	

# 第1章 計画の基本的な考え方

## 1 計画策定の趣旨

白老町教育委員会では、時代の潮流や教育における今日的な課題等を的確に把握し、中期的な展望に立って教育施策を着実に推進するため、2次にわたり社会教育中期計画を策定し、教育施策の総合的かつ計画的な推進に努めてきました。

平成28(2016)年に策定した第2次白老町社会教育中期計画では、「自ら学び、人格を磨く 創造力豊かな人材を育む 生涯学習の推進」を基本方針として、各種施策を推進しています。

この間、生産年齢人口の減少や急速な高齢化の進行、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新などにより、社会構造や雇用環境が大きく変化する時代を迎えています。また、人生100年時代の到来を見据え、多様なニーズに対応した学習環境の充実や主体的な学習機会を通して、学びの成果を個人の生活や地域での活動に生かすことが求められています。

このような状況を踏まえ、地域課題に対応した社会教育活動を更に推進するため、本町における社会教育の現状と課題を明らかにし、効果的かつ効率的な行政運営を図るための指針となる第3次の中期計画を策定するものです。

## 2 計画の名称と期間

この計画の名称を「第3次白老町社会教育中期計画」とし、計画期間は令和3(2021)年度から令和10(2028)年度までの8ヵ年とします。

施策に対する具体的な取組や個別の事業については、単年度計画を策定し実施していきます。なお、計画期間中の運用に当たっては、社会情勢の変化や町民からの要望に応じて、弾力的に見直しを図っていくものです。

## 3 計画の位置付け

この計画は、本町の社会教育における現状把握を行い、基本的な課題を明らかにした上で、「第6次白老町総合計画」と令和2(2020)年度に策定する「白老町教育推進基本計画(白老町教育大綱)」との整合性を図り、社会教育行政施策を体系化するとともに基本目標及び施策を示すものです。

## 4 計画策定の概要

- (1) 白老町教育委員会の諮問に基づいて策定します。
- (2) 「第2次白老町社会教育中期計画」を検証し、現状と課題を分析します。
- (3) 「第6次白老町総合計画」及び「白老町教育大綱」との整合性を図ります。
- (4) 国及び北海道の答申や報告等にも留意します。

## 第2章 社会教育を取り巻く環境の変化

### 1 人口減少と少子高齢化の進行

本町においては、昭和 60（1985）年の 24,353 人をピークとして、現在も全国を上回るスピードで人口減少が続いています。この間、出生数の大幅な減少に伴い、年少人口（15 歳未満）や生産年齢人口（15～64 歳）が減少している一方で、老年人口（65 歳以上）は増加しており、令和 2（2020）年の高齢化率は 45.3%と、全国及び全道平均より高い割合となっております。

人口減少や少子高齢化の進行が及ぼす影響は、教育分野だけにとどまらず、経済、産業、雇用、医療、福祉、家庭環境など、生活のあらゆる場面に及ぶことが予測されるため、地域社会を支える担い手の養成も大きな課題となっております。

高齢化が進む中で、アクティブシニアと呼ばれる層も増加することから、ニーズを捉えた学習機会の提供と、学びを活動に循環させる機会の創出も必要です。

### 2 技術革新とグローバル化の進展

高度情報化の進展により、スマートフォンなど ICT の利活用が世代を超えて広がっています。急速な技術革新により、社会や生活が大きく変化していく中で、変容する社会に適応した新たな価値を創造できる人材の育成が求められています。

また、グローバル化が高度に進展した現在の社会では、人・モノ・情報・サービス等が国境を越えてつながり、世界の動きが直接的に地域社会へ影響を与えるようになっています。

本町においても、外国人観光客や在留外国人が増加しており、「多文化共生社会」の実現に向けて、加速するグローバル化に柔軟に対応できる人材を育成することが求められています。

### 3 多様な主体との連携

社会を取り巻く環境が著しく変化しており、個人や地域が抱える課題が多様化・複雑化しています。こうした環境下においては、物事を主体的に判断し、他者と協働しながら地域社会の課題解決を担うことができる人材の育成が求められています。

そのためには、公民館などの社会教育施設を学習の拠点として、町内の社会教育関係団体や企業、NPO、ボランティア団体などと連携した学習機会の提供が必要です。また、多様な主体との連携が求められる中では、様々な団体や活動を結ぶコーディネート機能を持った人材の育成や活動の拠点づくり、社会教育の関連する多様な情報の発信が一層重要となっております。

## 4 子供たちをめぐる環境の変化

家族形態の変化やライフスタイルの変容により、人と人とのつながりや地域のつながりの希薄化が進み、子育て家庭の社会的孤立や地域の教育力の低下が指摘されています。

また、子供たちの生活の中に、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を活用したコミュニケーションの機会が増加することは、生活体験や自然体験の機会を減少させるだけでなく、人間関係の形成や社会性の発達に影響を及ぼす危険性が懸念されています。

このような、子供たちを巡る諸課題に対応するためには、学校のみならず、家庭や地域の果たす役割が大きく、家庭や地域の教育力を一層高めていくことが重要です。

## 5 安全・安心に対する意識の高まり

我が国は、世界有数の自然災害発生国であり、近年も北海道胆振東部地震や東日本大震災など、これまでの想定を超える大規模な災害が発生しています。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、「新しい生活様式」の実践が求められ、町民の安全・安心に対する意識はますます高まっています。

また、人々の安全が脅かされる事件及び事故も全国的に多発しています。特に、子供や女性、高齢者など、社会的に弱い立場にある人が被害者になることを防ぐためには、地域コミュニティの重要性が再認識されていることから、人々をつなぎ、支え合う共助の精神を高める社会教育事業の構築が求められています。

## 6 芸術文化活動・スポーツへの関心の高まり

町民が心の豊かさを実感し、郷土への愛着や誇りを育むためには、地域の多様な文化や芸術に触れる機会を充実させるとともに、特色ある地域の歴史を学び、ふるさと白老の素晴らしさを誇りに思う心を育てることが大切です。そのため、ウポポイなどとも連携しながら、地域に根差した文化活動や優れた芸術の鑑賞機会を充実させることが重要です。

また、スポーツでは、東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向け、本町においても生涯スポーツや日常的な健康増進活動への関心が高まっており、誰もがスポーツに親しむ絶好の機会となります。

地域における芸術文化活動やスポーツは、町民が自らの町への誇りや愛着を深めるきっかけになるとともに、それに関わる地域の人々の生涯を通じた学びにもつながっていくことから、その推進はますます重要になっています。

## 第3章 基本方針

第3次白老町社会教育中期計画の推進に当たっての基本方針を次のとおりとします。基本方針とは、本計画が目指す将来像をキャッチフレーズ的に表現するものです。

**生涯を通じて、自ら学び続ける人の多様な学びを推進します。**

人生100年時代を豊かに生きるためには、生涯を通じて学び続け、日常生活に生かしていくことが大切です。そのため、町民が「いつでも、どこでも、何度でも学ぶことができる環境」の整備や、ライフステージに応じて主体的に学ぶことのできる学習機会の創出に努めます。

第2章「社会教育を取り巻く環境の変化」を踏まえた上で、白老町社会教育委員会の審議や町内の社会教育関係団体等からの聞き取り調査を通して浮かび上がった地域課題や町民ニーズを把握し、第4章に示した重点目標を意識した各分野における個別の計画を策定し、基本方針の実現に向けて取り組みます。

## 第4章 重点目標

今回の社会教育中期計画で目指す内容については、「白老町教育推進基本計画（白老町教育大綱）」で示された目標を具現化するため、次の4項目を重点に掲げて推進します。

- (1) 主体的な学びへのきっかけづくり
- (2) 学びや活動を通じたつながりづくり
- (3) 郷土を愛し、次代を担う人材の養成
- (4) 学びやつながりづくりの拠点となる環境の整備

## 第5章 具体的な推進施策

第3章「基本方針」及び第4章「重点目標」を踏まえ、青少年教育や成人教育などの分野別に「現状と課題」を整理した上で、「推進項目と具体的な推進施策」を記載しています。なお、具体的な施策については、単年度の計画を策定します。

# 1 青少年教育の推進

## (1) 現状と課題

子供たちが、ふるさと白老の良さや魅力に気付くとともに愛着を育むため、萩の里自然公園やポロトの森の豊かな自然を活用したイベントを、町内の社会教育関係団体や健全育成団体、地域おこし協力隊などと連携して実施しています。これらの取組は、子供たちがふるさと白老に対する理解を深めるだけでなく、子供を核とした地域づくりを進める上で重要な役割を担っています。

多くの地域住民を巻き込んだ魅力あるイベントの実施には、準備に時間が必要であり、回数の増加や継続的な実施に向けた協力体制の構築に課題が残っています。また、開催場所への移動や他の機関が行うイベントとの日時・会場・対象・事業内容に重複がないように調整する必要性も指摘されています。

また、姉妹都市との交流事業や北海道教育委員会が主催するリーダー養成研修事業への派遣、地域の若者が協力して企画・運営する成人式など、次代のまちづくりを担う人材の養成も進めており、それらの人材の更なる活用と資質の向上も課題です。

## (2) 推進項目と具体的な推進施策

☆は「第6次白老町総合計画」に記載されている項目

推進項目	施策（推進事業、事項など）
1 しらおいの魅力に気付き、ふるさとへの誇りや愛着を育むふるさと教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然や歴史など地域資源を活かした体験イベントの実施</li> </ul>
2 子供たちの主体性や協調性を育む交流機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史や文化に親しむ交流機会の充実</li> <li>・国際感覚を養う交流機会の充実</li> </ul>
3 地域活動やまちづくりの担い手となる人材の養成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新成人を含む地域の青年の主体的な参画による成人式の開催</li> <li>・北海道教育委員会と連携したリーダー養成研修への派遣</li> <li>☆地域の青年団体等の活動への支援</li> </ul>



ポロトの森で野焼きパンづくり



新成人を含む地域の青年が企画した成人式



## 2 成人教育の推進

### (1) 現状と課題

社会の成熟やライフスタイルの変化により、生きがいのある充実した人生を送りたいという市民のニーズが高まっています。一方、急速に進む人口減少や少子高齢化により、地域の活力の低下が懸念されています。このような現状を改善するためには、地域住民が行政とともに当事者意識を持って地域づくりに参画することが求められており、公民館等の社会教育施設が持つ機能を活用した、学びとつながりづくりの活性化が求められています。

そのため、市民ニーズや地域課題の把握が極めて重要であり、社会教育委員会や社会教育関係団体からの意見も参考にして、市民が意欲的に参加できる「公民館講座」などの学びの機会の充実が必要です。また、新型コロナウイルスの流行により、各種事業が中止となっている中で、双方向でつながる遠隔会議システムを活用した取組は、地域のつながりづくりや産業の基盤強化に有効であるとの指摘もあることから、今後積極的に取り入れることを検討します。

また、近隣市町と連携した道外視察研修への派遣、地域で活躍する女性を講師とした研修会を継続的に開催することで、女性が社会で活躍する基盤づくりを図っていきます。

### (2) 推進項目と具体的な推進施策

☆は「第6次白老町総合計画」に記載されている項目

推進項目	施策（推進事業、事項など）
1 市民ニーズを捉えた多様な「公民館講座」の充実	☆公民館等の社会教育施設において、地域人材や関係団体など、多様な主体と連携した講座の開催 ・ICTを活用した取組の推進
2 地域課題を発見し、解決に向けて主体的に取り組む意識を醸成するための学習機会の提供	・社会教育関係団体や町内会組織等と連携した講座の実施
3 女性が社会で活躍するための人材養成及び支援	・国内女性リーダー養成研修等への派遣 ・地域で活躍する女性に学ぶ女性向け講座の開催



アイヌ文様刺しゅう体験講座



アロマの香りに包まれた女性講座

### 3 高齢者教育の推進

#### (1) 現状と課題

世界に類のない速さで少子高齢化が進んだ我が国は、「超高齢社会」を迎えており、本町においても65歳以上の人口は45%を超えています。

一方で、価値観の多様化や就労環境の変化に伴い、高齢者教育の中核である高齢者大学や高齢者クラブ連合会においては、参加者の減少が続き、組織の高齢化も進んでいます。これは、本町の高齢者教育が、高齢者の余暇の活用や生きがいの創出に比重が置かれ、個人志向の完結型の学びに止まる傾向が強いことも原因の一つであると考えられます。

今後、高齢者が長く健康に生活できる町づくりを推進するためにも、従来の「社会から支えられる高齢者像」から「社会を支える高齢者像」への転換を地域全体で進めていくことが求められており、それを具現化する高齢者教育の充実が必要です。

そのためには、高齢者が長年にわたって身に付けた知識や技能、経験などが地域資源として重要であることを認識し、誇りを持って主体的に地域社会に関わる循環型の学びへの転換を始め、高齢者が地域社会に関わる機会の創出や連携体制の整備、教育内容や方法の見直しが課題となっています。

#### (2) 推進項目と具体的な推進施策

☆は「第6次白老町総合計画」に記載されている項目

推進項目	施策（推進事業、事項など）
1 高齢者の知識を活かした事業、世代間交流の推進	☆世代間交流の推進 ・人材の発掘と活動機会の創出、支援
2 高齢者による主体的な学習、健康増進を支える環境づくりの促進	・高齢者関連事業の開催、支援 ☆健康づくりに資する機会の創出、支援
3 高齢者大学の主体的な運営の促進	・高齢者大学の活動内容の充実、積極的な周知活動による参加奨励
4 高齢者の意識や認識の転換に向けた取組の促進	・これからの高齢者モデルの設定と発信、高齢者に関する実態把握と分析



高齢者大学定例講座の「落語会」



関係団体の連携による「合同運動会」

## 4 社会教育施設・スポーツ施設の整備・活用

### (1) 現状と課題

公民館・図書館・資料館などの社会教育施設や、総合体育館や町民プールなどのスポーツ施設は、個人やサークル活動で活用され、町民の教養を深め、健康づくりやスポーツの競技力を向上する上で大きく寄与しています。また、人と人がつながるコミュニティの拠点として、安全・安心な地域づくりを進める上でも重要な役割を持っています。

しかし、施設の多くは建設から30年以上が経過しています。町民が安心して施設を利用するためには、計画的な補修や大規模な改修が喫緊の課題となっており、町民の利用実態の的確な把握と修繕改修計画の策定が重要です。また、既存の施設の有効活用を図るためにも、耐震化や長寿命化の検証を進めることも求められています。

スポーツ施設については、民間のノウハウやネットワークを生かした施設管理や事業展開を目的とした指定管理者制度を導入しており、今後も定期的に協議を積み重ねて、利用者目線に立ったサービスの向上に努めることが重要です。

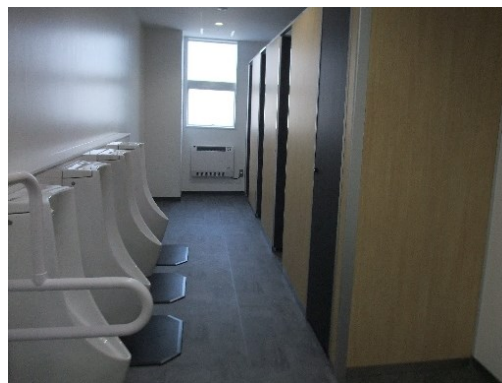
### (2) 推進項目と具体的な推進施策

☆は「第6次白老町総合計画」に記載されている項目

推進項目	施策（推進事業、事項など）
1 計画的な修繕や設備の充実による利便性の向上	☆社会教育施設やスポーツ施設の現状の把握と施設毎の分析 ☆修繕改修計画の策定と適正な維持・管理 ☆耐震化や長寿命化の検証
2 施設の有効活用と検討、機能の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者との連携による施設の有効活用</li> <li>スポーツ施設の適正な管理と既存施設及び機器を活用した事業提案に対する支援</li> </ul>
3 利用者満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>親切丁寧な対応で親しまれる施設づくりの推進（利用者目線にそった備品等の更新、充実）</li> </ul>



好評を得る町民体育館のトレーニング室



利便性が向上した白老コミセンのトイレ

## 5 社会教育活動の推進

### (1) 現状と課題

本町では、これまで多くの社会教育活動団体等が、長きにわたりそれぞれの独自性と主体性を生かした活動を継続してきました。そして、行政と協働で取り組んできたこれらの活動は、地域課題解決のための重要な一翼を担っています。

しかし、人口減少や高齢化の影響から、新規の団体の設立は減少傾向にあり、既存の団体においても、会員の減少や高齢化、新たな役員の担い手不足が進行し、活動の存続が危惧される状況も見られます。このような状況を改善するためには、社会教育関係団体への相談や支援の強化や、多様な団体を結び付けるコーディネート機能の充実が必要です。

特に、様々な社会教育活動に新たな人材の参画を促進するためには、活動の核となるリーダーや、多様な人材や活動を結ぶコーディネーターの発掘と養成を進めることが重要です。更に、町民ニーズを的確に捉えた情報発信や、町民が意欲的に参加できる魅力的な社会教育事業の展開、そして、誰もが気軽に集える場づくりなど、世代や分野の垣根を越えた人と人とのつながりの構築が求められています。

### (2) 推進項目と具体的な推進施策

☆は「第6次白老町総合計画」に記載されている項目

推進項目	施策（推進事業、事項など）
1 社会教育関係団体等の活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な団体活動のための相談、支援</li> </ul>
2 地域の多様な団体の連携促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町民の意見をもとにした社会教育活動の推進</li> <li>・団体活動のネットワーク化、リーダーやコーディネーターの発掘と養成</li> </ul>
3 活力あるまちづくりを進めるための社会教育活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国や道などの補助事業による財源確保</li> <li>・みんなの基金事業等、各種補助金を活用した活動の支援</li> <li>・町民の文化活動及びスポーツ活動への支援・表彰</li> </ul>
4 ☆学習を支える情報収集と情報発信	☆町の公式 facebook を活用した社会教育事業等の情報発信



多様な団体が連携して実施した里山イベント



みんなの基金を活用した人形劇

## 6 芸術文化活動の推進

### (1) 現状と課題

芸術や文化は、生活にゆとりや潤いを与え心の豊かさを育むとともに、豊かな創造力や感性あふれる人材を育むための原動力となります。

本町においては、白老町文化団体連絡協議会を始め、町内関係団体と連携して、町民の芸術文化活動への鑑賞機会や参加機会の充実を図るとともに、先人が築いてきた地域性豊かな文化を次代に継承するための地域学講座の実施などに取り組んできました。

また、令和2（2020）年のウポポイの開業により、本町の歴史やアイヌ民族の精神文化に対する町内外からの関心が高まっていることから、芸術文化活動の一層の推進によって、多くの町民が郷土文化の素晴らしさに触れ、まちへの誇りや愛着を育むことも重要です。

しかし、近年の人口減少や高齢化に伴い、地域に根差した文化芸術活動を展開してきた多くの団体では、構成員数の減少や役員の担い手不足、活動資金の確保等に課題が見られ、既存の事業内容を継続することが困難になってきています。「歴史と文化のまち」にふさわしい、文化の薫り高く、潤いのあるまちづくりに向けて、町民が芸術文化に一層親しみ、地域の文化活動を将来に継承するための継続的な支援が必要です。

### (2) 推進項目と具体的な推進施策

☆は「第6次白老町総合計画」に記載されている項目

推進項目	施策（推進事業、事項など）
1 豊かな心を育む芸術鑑賞事業の推進	☆芸術鑑賞事業等の開催
2 町民がまちの魅力や良さに気付く学習機会の創出	☆地域について学ぶ講座の開催 ・地域への学びを深める学習教材の作成
3 文化団体連絡協議会を中心とした特色ある地域文化の振興	☆各地区における文化祭の開催 ☆各団体の発表機会の提供・支援 ☆町内で活動する文化団体への活動支援



まちの歴史や文化を学ぶ「館長とまち歩き講座」



文化祭でのアイヌ古式舞踊披露

## 7 文化財の保存・活用

### (1) 現状と課題

本町には、北の防人として蝦夷地を防備した仙台藩陣屋跡（国指定史跡）やアイヌ民族が伝承している古式舞踊（国指定重要無形民俗文化財）など、誇るべき文化財があります。

ウポポイが開業し、その関連区域となった陣屋跡や元陣屋資料館へも多くの来訪者を迎えています。これらの方々に対し、本町の誇るべき歴史をしっかりと伝えていくことが課題となっています。

このことから、「史跡白老仙台藩陣屋跡保存活用計画」に則り、史跡の本質的価値を伝え、町内の文化財や関連施設を有効に活用するため、第2次環境整備事業に着手するとともに、国立アイヌ民族博物館など地域の博物館や文化活動団体とのネットワーク化の推進に努め、新たな文化財の保存と活用の創出に結び付けていくことが必要です。

### (2) 推進項目と具体的な推進施策

☆は「第6次白老町総合計画」に記載されている項目

推進項目	施策（推進事業、事項など）
1 陣屋跡の環境整備及び多角的な活用の推進	☆史跡白老仙台藩陣屋跡保存活用計画の進行管理 ・町民との協働による史跡の管理と活用
2 町民に親しまれる博物館活動の推進	☆文化財を活用した特別展やイベントの開催 ☆質の高いガイド人材の養成、資質向上 ・情報誌やインターネットを活用した発信の強化 ・展示の充実
3 国立アイヌ民族博物館との連携強化	・調査研究体制の整備、充実、歴史的遺産の相互活用
4 資料館見学や地域学講座など学校教育への積極的な支援	☆資料館を訪問する児童・生徒の受け入れ、町内の高等学校が行う地域学講座への協力
5 伝統文化継承者の活動促進	☆本町独自のアイヌ文化や各地域における伝統技能等を有する人材の発掘、活用、発信 ☆後世へ伝統文化を伝える後継者の育成



地域住民で賑わう子どもの日イベント



白老東高等学校の地域学講座

## 8 読書活動の推進

### (1) 現状と課題

様々な電子メディアの普及により、乳幼児期から子供たちが電子メディアに触れる機会の増加が社会全体の課題となっており、読書を通して親子が触れ合いの時間を持つなど、アウトメディアの取組の推進が求められています。

「第4次白老町子供の読書活動推進計画」では、保護者が子供の読書についての理解を深め、幼少期から家族と一緒に本に親しむことができるよう、各家庭における「家読（うちどく）」の取組を強調しています。また、学校司書や地域のボランティアとの連携を強化し、発達段階に応じた適切な本を子供たちにつなぐ読み聞かせやブックリストの作成など、家庭・地域・学校等を通じた社会全体での子供の読書活動の充実が重要です。

町立図書館では、公衆無線LANによるインターネット環境や郷土資料の特設コーナーの整備、移動図書館車の巡回等を実施していますが、子供から高齢者までのニーズを的確に捉えて、利用しやすい図書館づくりを一層推進していきます。

### (2) 推進項目と具体的な推進施策

☆は「第6次白老町総合計画」に記載されている項目

推進項目	施策（推進事業、事項など）
1 親しまれる図書館を目指した施設と蔵書の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆読書活動を推進する蔵書選定、適切な蔵書管理</li> <li>☆広く本に親しみ、読書機会をつくる事業の充実</li> <li>☆アイヌ関係資料を含む郷土資料の収集及び活用</li> <li>・時節に応じた資料展示の充実</li> </ul>
2 利用しやすい環境づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆移動図書館車、本の宅配サービス等の活用促進</li> <li>・視聴覚資料等の整備、充実</li> </ul>
3 家庭・地域・学校等と連携した子供の読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆第四次白老町子供の読書活動推進計画の推進</li> <li>☆学校司書との連携による調べ学習や読書活動の支援、充実</li> <li>・保護者を対象にした読書の普及啓発活動の推進</li> <li>・読書活動団体等への支援・協力</li> </ul>



移動図書館車ななかまど号による本の貸出



毎年恒例の「本のリサイクル市」

## 9 スポーツ・健康増進活動の推進

### (1) 現状と課題

近年、子供たちの生活環境においては、部活動やスポーツ少年団等に参加する人数の減少、指導者の高齢化や新たな担い手不足が深刻になっています。そのため、個人や団体による自主的なスポーツ活動の支援、人材の発掘・育成が求められています。

また、町民の体力向上や健康増進、生きがいづくり、地域コミュニティづくり等に供するため、地域住民が主体となった軽スポーツを支援し、誰もが気軽にスポーツに親しむ環境づくりの充実に努める必要があります。運動をするという目的だけでなく、運動を通して人と人とのつながりを深めることも重要です。

本町では更なるスポーツ振興のため、各種競技団体や白老町スポーツ推進委員会からの協力を得て、町民に対するスポーツ指導やスポーツに親しむイベントの開催に係る連絡調整や助言を行っており、今後の充実が一層求められています。また、指定管理者が行うイベントや講座の充実に向けて、適切な連絡調整や指導を行うことで、より多くの町民がスポーツや健康増進に取り組む施策を推進していくことが重要です。

### (2) 推進項目と具体的な推進施策

☆は「第6次白老町総合計画」に記載されている項目

推進項目	施策（推進事業、事項など）
1 スポーツ推進委員等と連携した、健康増進・レクリエーション機会の充実	☆軽スポーツ等の普及、促進（スポーツ推進委員による学校教育への支援） ・しらおい元気まち体操の普及
2 ライフステージに応じた地域スポーツ活動の推進	☆指定管理者のノウハウやネットワークを活用した魅力的なスポーツイベントや講座の開催 ☆スポーツ大会やイベント開催による地域活性化 ・学校開放事業の適切な運営
3 スポーツ団体等との連携強化	・スポーツ団体の活動の積極的な周知 ☆指導者の育成による競技力の向上 ・総合型地域スポーツクラブとの情報共有
4 計画性のあるスポーツ行政の振興	・現状把握と方向性の検討



本町発祥の軽スポーツ「ゲーリング」の大会



北海道中学校軟式野球黒獅子旗大会



# 10 青少年の健全育成

## (1) 現状と課題

次代を担う青少年が、豊かな人間性を育み、健全に成長するためには、学校・家庭・地域が連携を強め、それぞれの役割を果たすことが必要です。

本町においては、町長を会長とする白老町青少年問題協議会が条例により設置され、青少年の健全育成に関わる団体が定期的に情報交流を行っています。また、同協議会の専門部会である青少年センターが、巡回活動、環境浄化活動、相談活動、広報活動の4つの活動を行政機関や学校、健全育成団体と連携して行っています。

近年、高度情報化社会が進展し、子供たちがスマートフォンやタブレット等の情報機器に触れる機会が著しく増え、非行や犯罪、知人とのトラブルに巻き込まれる危険性が高まっています。このような課題を解決するためには、「白老町アウトメディア123」を生かした取組や、保護者や地域住民に対する学習機会の充実が求められています。

## (2) 推進項目と具体的な推進施策

☆は「第6次白老町総合計画」に記載されている項目

推進項目	施策（推進事業、事項など）
1 地域住民と連携した巡回活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>青色回転灯車による下校時の定期的な巡回活動</li> <li>祭典実施時の巡回活動</li> <li>近隣市町と連携した通学列車添乗指導</li> </ul>
2 青少年を健全に育成する環境浄化活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>「白老町アウトメディア123」の推進</li> <li>社会を明るくする運動への協力</li> <li>マチコミメールによる情報発信</li> </ul>
3 悩みや不安を抱える青少年や保護者に対する相談活動の実施	☆相談電話による個別相談、相談ポストの設置
4 健全育成活動に地域住民が積極的な参画を促す啓発	☆「青少年センターだより」による情報提供 ☆『広報げんき』による情報提供
5 関係機関及び団体の連絡調整、ネットワーク化の推進	☆白老町青少年問題協議会の開催 ☆関係機関や学校等との緊密な情報交流、連携強化



社会を明るくする運動のキャラバン隊



アウトメディアの重要性を学ぶ講演会

# 1 1 地域連携による教育活動の推進

## (1) 現状と課題

「地域の子どもは地域で守り育てる」をスローガンに、町内会・各種団体・企業・警察・学校・教育委員会など170を超える団体で構成される白老町青少年育成町民の会が核となって、地域の連携を基盤とした教育活動を推進しています。

近年では少子化等の影響を受け、子供たちの成長を促すイベントや講座は、各種取組を推進する育成者の高齢化などにより、マンネリ化や参加者の固定、開催回数の減少などの課題が顕著となっています。今後の在り方については、より多くの地域住民との対話を重ね、ニーズに応じた方向性を示すことが必要です。

児童・生徒からの意見を反映して策定された「しらおい子ども憲章～ウレシパ～」は、子供と大人がそれぞれの役割を担い、夢や希望を持って生活する上での方向性を示しており、一人ひとりの人権や多様な価値観を尊重するまちを実現するためにも重要です。継続的な取組によって各小中学校における活動が充実してきたため、今後は、本憲章の考え方を地域住民や保護者に浸透させていくことが求められています。

## (2) 推進項目と具体的な推進施策

☆は「第6次白老町総合計画」に記載されている項目

推進項目	施策（推進事業、事項など）
1 地域連携による安全・安心な環境づくりの推進	☆地域の教育力を高める学習機会の設定 ☆「あいさつ・一礼運動」の実施 ・町民の会「ひなんの家」の旗の設置、維持管理
2 地域との交流活動の支援	☆子供たちが地域住民と交流するイベントの支援、子ども会活動の支援
3 しらおい子ども憲章～ウレシパ～の具現化	☆憲章を具現化するための各小中学校における特色ある取組への支援 ・憲章の趣旨を地域住民や保護者などに理解・浸透を図る取組の充実 ・中学生の夢や希望を育むプロフェッショナル講演会の開催



あいさつ・一礼運動（萩野小学校区）



子ども憲章実践発表会における取組発表

# 参 考 資 料

## 1 社会教育関係団体からの聞き取り調査

### (1) 調査概要

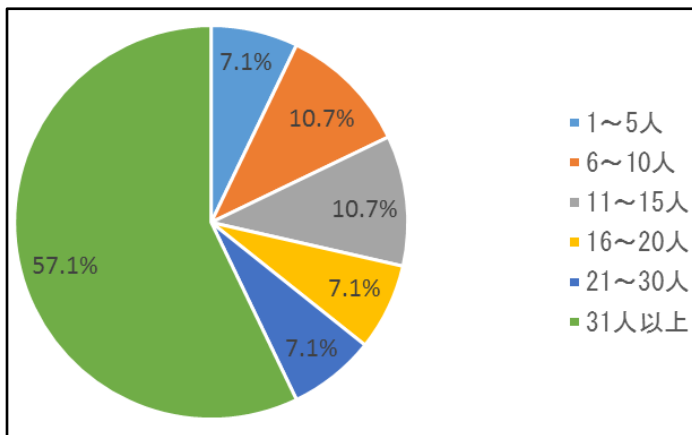
多様なニーズに対応した社会教育活動を推進するため、白老町における社会教育の現状と課題を意見聴取し、第3次白老町社会教育中期計画に反映させるため、町内で活動する社会教育関係団体等を対象としたアンケート調査を実施する。

### (2) 調査方法

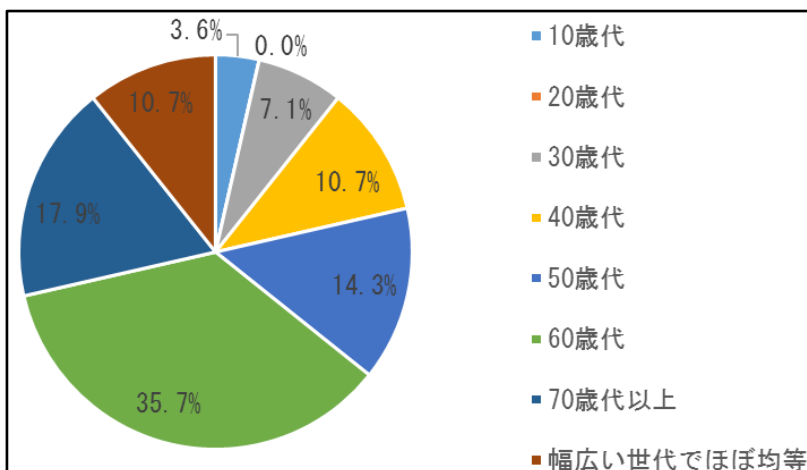
- ・対 象 町内で活動する社会教育関係団体等
- ・調査数 31団体（有効回答率100%）
- ・方 法 アンケート用紙をもとにした聞き取り調査
- ・時 期 令和2年8月7日（金）～8月31日（月）

### (3) 調査団体のデータ

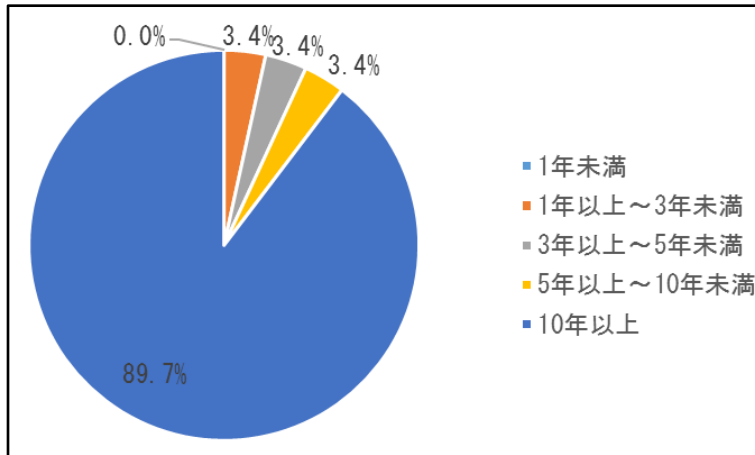
- ・団体の会員数



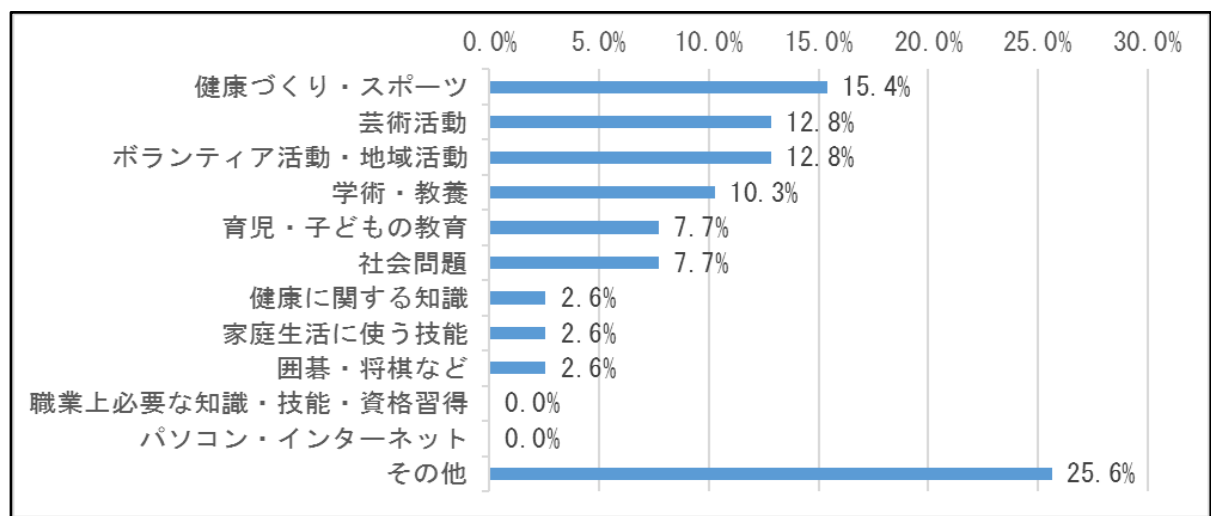
- ・所属会員の年代



・活動年数



・活動分野



・白老町の生涯学習施設・環境について

	かなり良 くなった	やや良 くなった	変わら ない	やや悪 くなった	かなり悪 くなった	わから ない
既存の施設の整備・更新状況	2団体 (6.5%)	5団体 (16.1%)	14団体 (45.2%)	3団体 (9.7%)	5団体 (16.1%)	2団体 (6.5%)
施設の職員の対応	4団体 (12.9%)	7団体 (22.6%)	15団体 (48.4%)	1団体 (3.2%)	0団体 (0.0%)	4団体 (12.9%)
施設の利用料金	0団体 (0.0%)	3団体 (9.7%)	18団体 (58.1%)	3団体 (9.7%)	2団体 (6.5%)	5団体 (16.1%)
施設の利用手続きのしやすさ	1団体 (3.2%)	4団体 (12.9%)	22団体 (71.0%)	1団体 (3.2%)	0団体 (0.0%)	3団体 (9.7%)
町による生涯学習に関する情報発信	0団体 (0.0%)	5団体 (16.1%)	19団体 (61.3%)	2団体 (6.5%)	0団体 (0.0%)	5団体 (16.1%)
町による町民参加活動や学習成果活用の支援	0団体 (0.0%)	6団体 (19.4%)	18団体 (58.1%)	3団体 (9.7%)	0団体 (0.0%)	4団体 (12.9%)
町による人材・団体の育成など、地域づくりを支える組織への支援	1団体 (3.2%)	5団体 (16.1%)	15団体 (48.4%)	5団体 (16.1%)	1団体 (3.2%)	4団体 (12.9%)

【施設・整備】

- ・体育館のトイレ（和式）、シャワー等の整備。
- ・竹浦コミセンの絨毯が毛羽立っているので、張り替えが必要。
- ・施設自体が老朽化しており、良くなったとは言えない。
- ・以前に比べスポーツできる場所が減った。

- ・今年度は状況的な問題かもしれないが、雑草等施設の整備が不十分な部分が見える。
- ・設立から整備されていない部分もあるため、改修や修繕が必要。
- ・施設の老朽化に対して、改修が進まない点が今後心配。
- ・利用者目線に立った施設整備を望む。トイレは、暗いところがある。予算の問題もあるが、ニーズ調査等をして新たな整備をしなくても気持ちよく使えるような工夫をするべき。ただし、利用者自身もルールを守り自覚を持って使用すべき。
- ・施設の冷暖房の完備を望む。
- ・白老コミセンの講堂のパイプ椅子の出し入れが大変。

#### 【利用料金】

- ・会場の使用料を下げたい。
- ・使用料が以前より高くなった。
- ・場所によっては利用料が少し高く感じた。
- ・コミセンの利用料金だけが高くなった。徴収することで、町の財政や施設の利便性が向上するのであれば良いが、そうではないと思うので無料化を期待したい（商売目的の利用は除く）。
- ・利用料金は高いわけではないが、会の運営という面では大きな負担になっている。
- ・この施設でこの料金は妥当なのかという疑問がある。個人で使用する場合に料金は高いと感じないが、大きい部屋や利用時間が長くなると高く感じる。準備時間も料金が発生するが支払いは利用した分だけにしてほしい。予約がなければ準備後の料金は取らなくて良いのではないか。

#### 【利用方法・時間等】

- ・プールや体育館などの施設利用料金を子供たちは無料にして欲しい。子供たちは、そのような場所をつながりづくりの場として活用している。また、中高生が集う場所がなくて困っているので、公民館等にサロンのような場所を設けることはできないだろうか。
- ・社会教育団体の小中学校体育館使用については、基本的に飲食や炊事が禁止とされているが、そのルールに曖昧さがあることから統一的なルールを作成し、条件を満たせば飲食が認められるような新たな基準を整備して欲しい。
- ・公民館でいつも利用している部屋が先に予約が入っていて使えなかった場合、その後先に予約した団体がキャンセル等した際に連絡して欲しい。
- ・施設予約は自分でできるようになった方が良い。
- ・スマートフォン等で予約状況を見たり、予約ができたりするようにして欲しい。

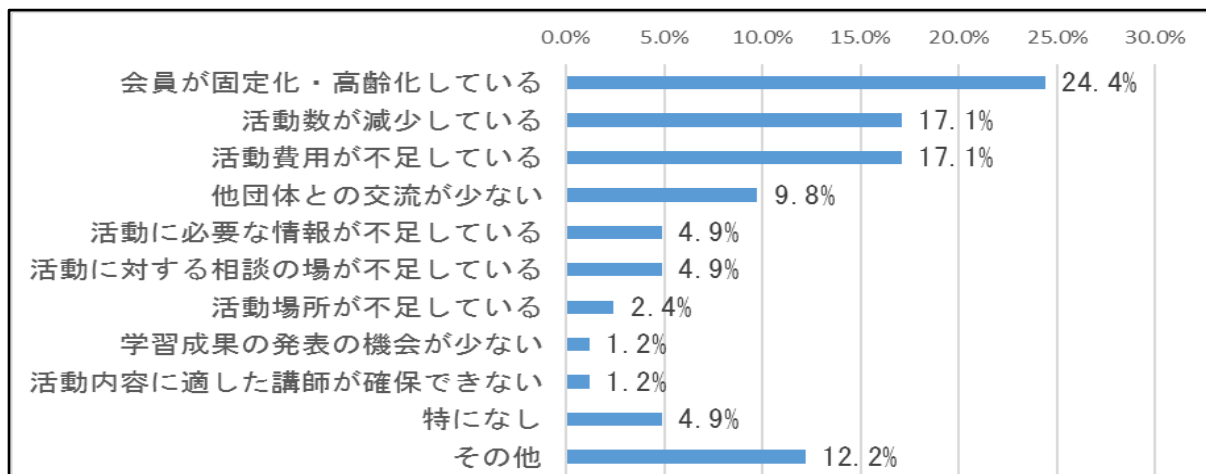
#### 【情報提供・発信】

- ・地域の課題を解決したり、自発的な活動に取り組む意欲を育むための学びとネットワークの場が増えたりすると良い。
- ・費用対効果を考えると、情報発信については無理をしなくて良いと考える。それよりも、教育委員会が教育委員会にしかできないことに対して腰を据えてしっかりするべき。何よりも市民の学習ニーズを捉えた講座の開設を期待したい。
- ・小中学生を対象とするならば、学校を通しての情報発信で問題ない。保護者を対象とするならば、Facebookなどの利用は効果的ではないかと思う。
- ・広報は情報が多く、見にくい。

#### 【その他】

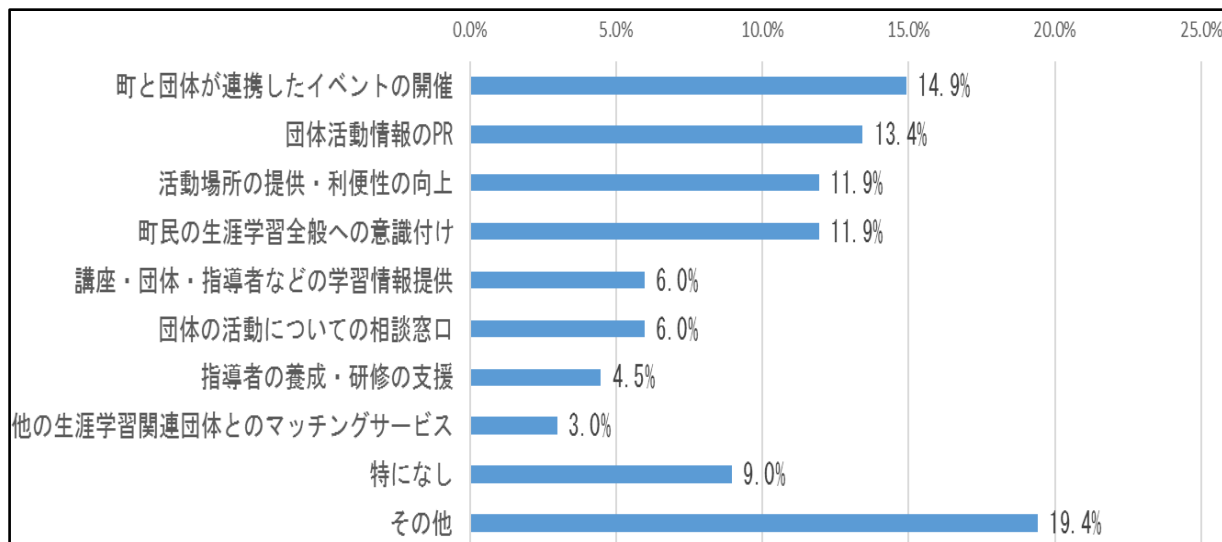
- ・継続的な支援があると、もっと活動を広げられる。
- ・交付金等を活用して、人材づくりの取組が最近見られることは評価できる。
- ・文化祭等に生徒の作品を出展し地域の方々に見てもらうことはとても良いことであり、良い機会だと思っているが、複数の箇所に展示をすると展示を行う教員側に負担がかかる。
- ・中学生は職業体験や総合的な学習の時間を用いて地域の方々と関わり、色々な部分で支えてもらっている。
- ・小学校までは Gen キングや少年団などで好きなスポーツをすることができるが、中学に上がると苦小牧に行ってしまう方法がない。苦小牧まで行くにしても移動の問題もあり、自分の行いたいスポーツや活動ができる家庭とできない家庭が出てくる。町内で中学生まで参加できる団体が増えていくと良い。
- ・地域に部活動の指導員等が居てくれると良い。
- ・若い人が何を望んでいるのか分からないので、伝える場が必要。まちづくりセミナーには、町の若い人達が参加していて良かったので、続けた方が良かった。
- ・昔と比べ、支援がなければ活動の場がせまくなる。
- ・高齢者大学は学生数が少ないので学生を集めなければならない。学生募集は年1回、教育委員会が窓口・学生が知人を勧誘・班回覧もまわしている。学年活動が充実できる環境が整い、学年活動が楽しいとなれば、入学者も増えるのではないか。
- ・窓口は文連協になるのか、教育委員会になるのか分からないが、インターネットでインフォメーションセンターのようなものがあると良い。（作成後、各団体が情報を入力し、活用していけるのかは分からない。）
- ・どこの部署でも同様だが、やる気のない職員は必要ない。
- ・町民活動センターは何をやっているのか分からない。
- ・生涯学習に対しての予算が少ない。スタッフもいない。生涯学習とは何か考え直さなければならない。
- ・団体の活動資金に対して、もっと多く助成して欲しい。

• 各団体が抱える課題



- (敬老会への援助が数年前からなくなったように、) 人と人がつながる場面に対する行政的な支援が減ったことが、町全体の大きな課題だと考えている。つながりを作るということは、地域だけがすれば良いのではなく、地域活動だけでは賄いきれない課題も多くあるので、行政が支援をして生み出すことも重要だ。
- 活動人数が減少しているため現在は赤字だが、昔から活動していた時から貯まっているお金があるので、それを崩して活動している。そのお金を使い切ってしまったら、不足分を追加徴収するなどして活動していく。
- 講師が苫小牧に移住したため、町内在住の方に後継者をお願いしたいとは思っているが希望者は中々いない。現在の講師が活動出来なくなった場合、どうするかアンケートを実施したが、続ける人とやめる人が半分ずつだった。
- イベントや会議の参加者が限定されてきている。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の利用者数が以前のように戻っていない。
- 他の団体と結びつく機会や仕掛けが欲しい。
- 会の取組(存在)が知られていない。
- 会の代表が活動費用(図書購入)を負担している状況。
- 会員数は減少していないが、活動できる会員が減少している。
- 有料で借用できる施設ばかりではなく、無料で利用できる施設の必要性を考えて欲しい。使用料が発生するから集まらない等の声も聞かれる。何十年か前のように無料で集まれるような場所があれば活動の幅が広がる。
- 会員に高齢者が多い中、活動できる施設が減少しているため、移動の問題が発生し、参加できない・集まらない方が増えている。
- 今は役員になりたがる人がいない。
- 核家族化によって周囲との関わりが少なくなり、若い人は気持ちの余裕がなく、世代間のすれ違いを感じる。自分にとって何かメリットがないと団体に所属しようと思わない傾向がある。
- 現在の講師がやめたら、探すのは難しい。
- (高齢者大学の) 定例講座は予算との兼ね合いによって、お願いできる講師が変わってくる。
- 高齢者大学で音楽の指導者が見つからなかったと聞いているが、情報提供して欲しかった。

• 白老町に望む政策



- ・不審者情報などについては、その事態の危険度や重要度によって情報の伝達が止まってしまうことがある。また、町外の学校や職場に通う人は、大切な情報を受け取ることができない場合もある。マチコミメールのように誰もがリアルタイムに情報を受け取れる仕組みを活用して情報発信することで、地域の安全意識を高めるべきである。
- ・現在行われている大会等で社会の色々な人と関わることができるのは嬉しい。今後、積極的に発展させていくよりは、現状を維持しつつ、楽しく活動していきたいと思っている。そのため、特に町に望むことはない。
- ・町民の自主活動では、なかなか取り上げられていない現代的な社会課題（SDGs など）について、行政が学習機会の提供を担って欲しい。
- ・行政は受け身ではなく、もっと町民の活動に目を向け、情報提供やコーディネートをして欲しい。
- ・行政組織はもちろんのこと、町民同士や団体同士の横のつながりが出来ると良いと考えるので、様々な PR をして欲しい。
- ・施設を無料化にして欲しい。
- ・全町に向けてのイベントの支援（共催）をして欲しい。
- ・団体の活動内容が、地域や学校で振興していければ良いが、それを支援する体制がない。
- ・昔は各町内にスポーツや体操を普及・発信していこうという人がいたが今はいない。運動をするという目的だけではなく、運動を通して人と人とのつながりを深めることもできるため、そういう活動をする機会があると良い。
- ・高齢者にもわかりやすい情報発信をして欲しい。
- ・指導資格を維持するための費用面でサポートも行って欲しい。
- ・高齢者になると移動手段等において活動することができなくなってしまう場合が多いので、高齢者でも活動しやすいような活動支援（送迎など）を行って欲しい。
- ・大容量 Wi-Fi 環境、投影用の大ききなスクリーン（複数）、プロジェクターの貸出しがあれば良い。これからはコンピューターやインターネットの時代であるので、それらに親しむ環境や、対応できる施設であるべき。
- ・活動するための道具が多く重いので、保管場所があるといい。
- ・当会（そば打ち）の取組を披露する機会が欲しい。
- ・子どもゆめ基金などを活用した事業を行いたいが、申請手続きと準備をするスキルや時間がない。町の支援や他団体と連携できるといい。
- ・役場にいる人が町民の声を聞き、理解すべき。
- ・町からの情報提供・発信の仕方を検討する必要がある。
- ・高齢者大学のクラブ活動を新設してほしい。
- ・（高齢者大学への）移動手段の確保。元気号はバス停も遠く、バスの時間はちょうどいい時間帯がない。
- ・高齢者大学に合わせたデマンドバスがあると良い（御用聞きわらびの福祉有償運送を利用している方もいる）
- ・若い人に対して生涯学習全般の意識付けが必要である。
- ・もう少し文化に目を向けて欲しい。
- ・サークル活動をするのに交通手段が確保できているのか。また、元気号で間に合っているのか。サークル活動は自分達のやりたいことを自分達でやってきた。サークル活動をするのに、生涯学習課で交通手段の確保まで考えなければならぬのか。昔は、そのようなことは望んでいなかったはず。

## ・自由意見

### 【施設・設備】

- ・（蔵については）音響機器が 20 年以上経過しており、マイク以外は古くて使えない。
- ・施設の修繕に伴う予算が少ない。施設の老朽化も課題。コロナウイルスの影響に伴う、公共施設の管理に差がないようにした方が良い。（出入口の手指消毒等）
- ・コミセンのロビー（窓に面しているスペース）にテーブルと椅子を置いて、自由に使えるようにしてほしい（18 時くらいまで）。町の施設で飲食可能な自由に入出りできる場所が欲しい。中高校生の居場所にもなる。今後、庁舎の建替えを考える際には、町民が集まれる場所を併設するなど検討してほしい。・図書館が狭いため、十分に活動できない。
- ・コミセン講堂に 7~10 人くらい座れる円形テーブルを 20 台ほど購入してもらえると利用の幅が広がる。
- ・高齢者大学校舎について今後も継続して検討していただきたい。
- ・施設が古く、経年劣化が進んでいる。近年このことにより修繕が多くなってきている。今後、使用をしている際の修繕はやむを得ないが、経年劣化によるものは所有者（白老町）において対処願いたい。（指定管理における修繕費用には限度がある）
- ・指定管理施設も公共施設なのでコロナ対応に伴う消耗品（消毒等）をきちんと用意して対応したい。

### 【金銭面】

- ・補助金等の財政支援に関する情報提供の充実を求める。
- ・利用料金が町内・町外で異なるため、統一化を図りたい。
- ・将来的な活動を思慮した場合、活動資金の不足、事業活動に関わる人材不足が懸念される。行政のサポートが必須。
- ・施設の利用料が高い。準備や片付けにかかる時間も一定程度必要であり、それを含めた施設利用となるため、請求額が高額に感じる。
- ・資金や人員確保がぎりぎりの中で、頑張っている活動している団体が多い。そのような団体をもっと大切にして

欲しい。財政的な問題で援助ができないことは理解できるが、町にとって最もダメージが大きいのは、そのような活動団体が無くなってしまうこと。失くしてから気付くのではもう遅い。

【その他】

- 人は一人では生きられないし、人と関わる事で喜びを感じるもの。団体の長を支えていく気持ちの醸成や、コミュニティの一員として、小さくとも何かで社会と関わっていくという気持ちを、町民一人ひとりが持てるような呼びかけをして欲しい。
- コロナ禍での事業実施はとても難しく、何とか活動していくための方法を模索しているが、町で基準を作成してくれると助かる。
- 今後も参加したいという人がいて、活動資金があるうちは継続して活動していきたい。「参加したい」という人がいた場合には歓迎するので紹介して欲しい。
- 学びの場や交流の場が欲しい。そこでの出会いから、悩みの共有や情報発信をできたり、新たな活動・ネットワークが生まれたりする。
- 会員数が減って、活動の幅が広がらない。
- 親同士のつながりが、希薄になっている。
- 団体単独での活動に限界がある。他団体の協力をいただきたいと考える場合、他団体とのつながりが無いため、町の活動団体やその活動内容がわかる一覧表があったら良い。
- 生涯学習課でYouTube など様々な手法を確保して、もっと情報発信をすべき。毎日小さな出来事でもいいからコンセプトをもって発信を継続していくと良い。地域の団体を紹介していくのも良いのでは。行政の情報発信の在り方を今一度見直してはどうか。
- 高齢者大学で取り組まれているクラブ活動を生涯学習講座としてもっと広がりを持たせるのも良い。
- 町民が生きがいを持てるようなものに会える環境づくり（講座の開設等）があると良い。好きなものは、継続していくことができ、生きがいづくりにつながっていく。
- 生涯学習は、地域に出て話を聞くフィールドワークが大切である。
- 当団体が企画した事業等で「これは面白い」や「自分たちにもできないか」と感じたものがあれば、その事業の仕組みや方法について喜んで共有させていただきたい。
- 後継者がいない。
- 魅力的なまちを作るなら、教育の充実が必要である。まちの基盤を作るのが生涯学習である。みんなで学び合いを行う双方向の学びを仕掛けていくべき。これができるのが教育委員会である。自らが主宰する団体でも双方向の学びを企画したこともあったが、継続させることは難しかった。行政がこのような学びを創出することは、とても意義深い。
- 教育委員会が、アイヌ文化への理解が促進されるような取組をさせていただいていることに感謝している。
- 郷土への誇りや愛着を深める地域学の取組を推進したいという方向性に強く賛同する。
- 町と連携したイベント等を企画し、参加者の増加を図るのも良い。
- ボランティア活動が、行政の下請けのようなものになっていることがある。当団体の活動は、本来行政がしなければならぬ分野の活動では。高齢化や費用負担など、将来の活動に不安を感じる。若い世代の参加にも期待したい。
- 高齢者は、広報をよく見ている。目だけの情報だけではなく、耳からの情報など、様々な方法での情報周知を試みると良いのではないか。
- スポーツクラブ等で、小学生から中学生を含めて育てていくようなシステムが必要だ。
- 小学校では行っていたものが中学校では行っていないものがある。（スポーツ活動等）なので、小学校にあるものを小学校で終わらせないサポートが必要だと思う。
- 夏休み等に行う催し物は色々あるが、日程や体験内容がかぶっているものが多い。子供ファーストに考えて、催し物を行う団体同士が連携・連絡調整をとり行っていった方が良い。
- 子供の人数も年々減っていているため、行事や催し物などを一本化してまとめていった方が良い。
- 書道や読書感想文などは地域で活動している方々に審査をしてもらうのはどうか。（書道団体の方や文芸団体の方等）学校で審査を行っている教員の負担軽減にもなるし、地域とのつながりも持てると思う。
- 高齢者大学のクラブ活動は、パソコンやスマートフォンを学べるクラブがあると人が集まるのではないか。
- 新型コロナウイルス襲来により元陣屋資料館休館を余儀なくされました。入館者増を予想される中、昨年より出遅れ感が相当あります。友の会の研修を重ねて8/22より限定活動をスタートさせました。コロナ収束が見えない中、例年と違う環境で、来館者に対応しなければなりません。コロナ収束に不透明感が漂う中、来年以降に気持ちを切り替えざるをえません。そうした中、町の歴史と文化拠点である元陣屋資料館を含む、史跡群を教育委員会のみならず、町職員全員で定期的に巡回し、見聞を広めて、町民並びに道内外来町者にPR出来るようにすることが町の活性化になるでしょう。ウポポイ一辺倒ではなく、今、汗をかきましよう。



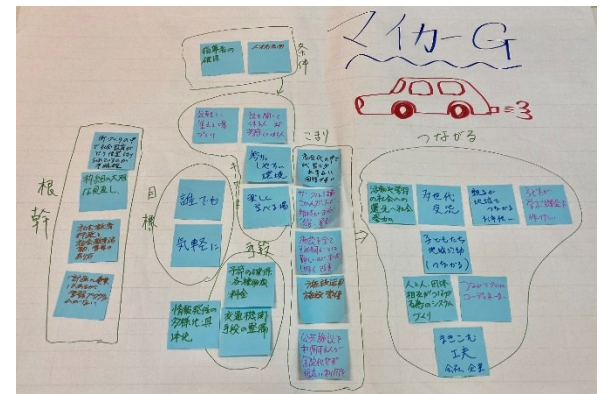
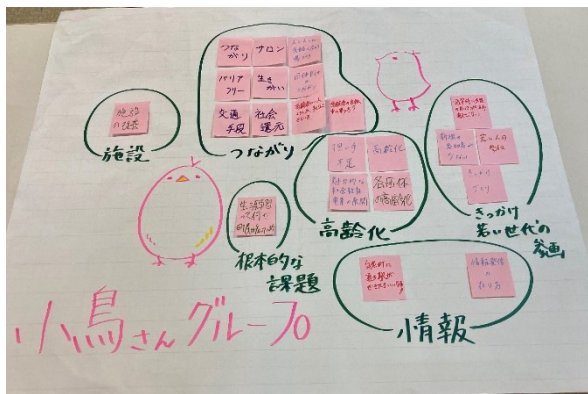
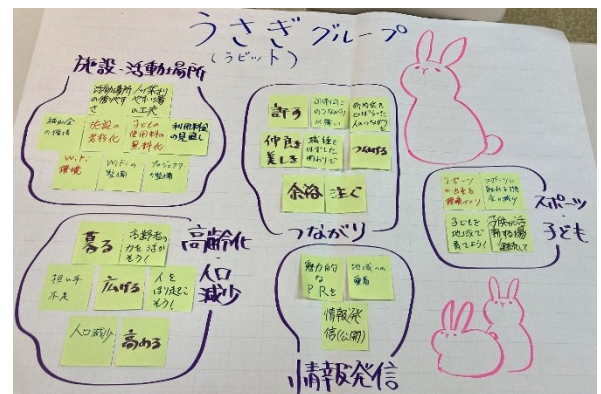
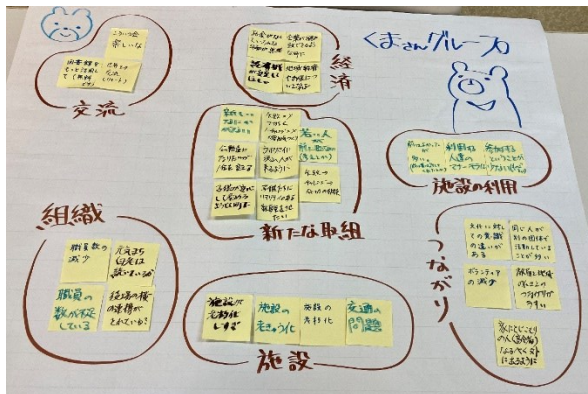
## 2 社会教育委員会でのグループワーク

### (1) 実施概要

町内の30を超える社会教育関係団体に対して行った聞き取り調査の結果を踏まえて、本町の社会教育の現状と課題について整理するとともに、第3次計画における重点項目について協議を行う。

### (2) 実施方法

- ・参加者 白老町社会教育委員、生涯学習課員
- ・日時 1回目：令和2年9月30日（水）  
2回目：令和2年10月28日（水）
- ・方法 「社会教育関係団体からの聞き取り調査について」をもとにしたグループワーク
- ・テーマ 1回目：白老町の生涯学習の現状と課題について



【社会教育委員から委員会終了後に提出していただいた感想】

1 第4回委員会で感じたことや考えたことをご記載ください。(現状と課題を中心に)

- 色々な立場、世代の方のお話を聞き、幅広く話を聞くことは大事だと思った。現在、様々な子育て家庭と関わらせていただいております、子供の環境格差も残念ながら感じている。白老の子供たちが健康やかに育つためには、家庭だけの子育てではなく、地域の中で見守られながら、その家庭と地域の方々との緩くても細くても、温かくつながることが大切だと実感している。多世代が共生というキーワードで関わることができる、拓かれた生涯学習。誰もが気軽に関わりやすい環境づくり。工夫、連携、そのための人づくり、人材育成は重要と思う。生涯学習という角度からも子供たちの成長、家庭との関わり、応援が出来たら良いなと思っている。
- その人その人の考え方や価値観を知ることができ、よりコミュニケーションが取れるきっかけになった。
- グループワークである程度、問題点を浮き出させることができたと思うが、その対策や解決策等の議論が不足したと思った。職員が入ったことは、コミュニケーションを深める点で評価できるが、社会教育委員の意見や議論が薄められた感がある。職員同士で同様の会議があるのだろうか。少子高齢化、人口減少の中で提案すべき論点をある程度抽出して、意見を問うのが効率的ではないか。
- 今後5年間の社会教育予算概算、施設管理に係る経費、事業予算を明確化し、必要な事業を絞るのが良いと思う。
- 施設の老朽化については順次できることから補修して下さるとありがたい。使用料の件では、減免の団体と比較すると高く感じる人もいると思うが、検討をお願いしたい。ウポポイ見学者も、修学旅行生が多くて、とても良い傾向にあり、そのまま伸びて欲しい。物事は困った時にすぐあきらめしないで、色々な方面から足を使って人と話し、苦労して、今があるという話を聞き、とても感動した。あきらめしないで努力や継続することの大事さを痛感した。
- 可能かどうかにかかわらず、「こうだったら良い」「こういうふうにしたい」などの希望や思いを出し合う場になったのは良かったのではないかと。今後、現状を考慮に入れながら、実現の可能性を探り、様々なことと折り合いをつけながら、進めていくと良い。
- 最初のグループワークで、現状と課題についての意見が出て、今後の計画策定の参考になることが多かったと思う。ただ、この現状と課題（の議論）は、以前から延々と続いているような気がする。その中で少しずつでも前に進んでいるのであれば、成果はあったと思うが…。
- 共通に思っている課題が多かった。子供、成人、高齢者のつながりや、人口が減少しているのも、一人ひとりの存在価値が活かせる取組が望ましい。
- 分科会別にワークショップで、委員が自由に発言できる機会があり、地域課題など連携できてよかった。町民が「生きがい」を持っていけるように、子供から高齢者の「人づくり」「まちづくり」に出会える環境づくりが必要である。

2 「第3次社会教育中期計画」に記載したい、記載したほうが良いと思うキーワードがありましたら、ご記載ください。

- つながる、つながり（個人、団体、年齢にとらわれない、異職種）、つながる強さ（×4）
- 共生（×2） ・人づくり（×2） ・情報発信（×2） ・拓く ・多様性 ・多世代
- 気軽に ・認めあう ・誰もが ・工夫 ・連携 ・楽しく学ぶ ・関わる ・育む ・環境作り
- 相互理解 ・町の個性 ・人口減少 ・団体活動 ・つどいの場 ・推進力 ・まちづくり
- 学び合い（学び合うことのできる活動の推進）

・テーマ 2回目：課題解決のための方策

1 青少年教育

- 姉妹都市交流事業や道教委のジュニアリーダー養成事業などに参加したリーダー人材が、学んだことを白老に戻ってから活用できる場づくりが求められる。
- (白老町だけのことではないが) 数十年前と比較して、子供たちが挑戦と失敗をするチャンスが大幅に減少している印象を受ける。大人になってからたくましく「生きる力」を身に付けるためにも、子供たちが幼少期から様々な体験活動や経験を通して、挑戦することの楽しさや大切さを学ぶことのできる事業を開催して欲しい。

2 成人教育

- 人口減少や高齢化が進む中で、団体活動の停滞や規模縮小、財源の確保が課題となっている。様々な団体の情報を集約することのできる生涯学習課は、多様な団体の活動をつなぐ役割を一層果たすべき。
- 町民が生涯学習情報に触れる機会を増やすことで、さまざまな学習や地域活動に参加するきっかけとなるため、町のfacebookなどSNSも有効に活用した方が良いのではないかと。

3 高齢者教育

- 「人生100年時代」が到来して、60歳を超えても勤労する方が増加するなかで、魅力のある高齢

者大学の運営とするためには、現在の高齢者のニーズをしっかりと把握したうえで、時代に合った教育課程の編成を行う必要がある。

- 高齢者がこれまでの人生の中で経験したことや身に付けたことを、多世代との交流や地域活動の中で還元する機会を積極的に設けることが必要ではないか。

#### 4 青少年の健全育成

- 社会が大きく変化する中で、子供たちの問題が大人からは見えにくくなっているため、これまで以上に生涯学習課が核となって地域の様々な団体を巻き込んで、「地域総ぐるみで子供たちを守り育てる」環境づくりや取組を推進すべき。
- 子供たちが学校教育で培った知識や技能を、地域社会の中で生かす機会を一層増やすためにも、学校教育課との連携を一層期待したい。

#### 5 社会教育・スポーツ施設

- まずは施設の現状を確認し、利用者層を踏まえた展望が求められる
- 施設の安全性が第一条件、次に利便性
- 町の予算の優先度（施設の修繕どれくらい重きをおけるのか）
- 計画的な施設の修繕が必要
- トレーニング機器等導入するだけでなく、どのようにして生かしていくか

#### 6 社会教育活動

- みんなの基金は同じ団体が活用する傾向にあり、もっと広く町民活動に生かした形で展開していきたい
- 児童 生徒の大会派遣助成についても、現状よりわかりやすい申請方法を整理した。町外選手との混合チームでの出場など、制度開始時と状況が変わってきている
- 社会教育事業の蔵への委託の在り方についても見直しが必要

#### 7 芸術文化活動

- 町民ニーズの把握やきっかけづくりの必要性
- 町民活動につながる支援の在り方（活動場所の提供・人材育成）
- 行政が主役ではなく、町民が主役となる支援を
- 行政がモデル事業を開催し、それを各団体が継続していけるような展開・支援
- ウボポイはウボポイ、白老町の地域の特性を生かしたものを発信していくべき
- 文章だけの計画になってはならない

#### 8 文化財の保存・活用

- ウボポイを活用しながら、白老独自のアイヌ文化や地域の特性をどう発信していくか
- 子供の頃から、博物館に触れる機会を。正しい知識の習得、五感を磨いていく情操教育の必要性
- 文化財を活用した事業展開（交流促進バスを活用した文化財めぐり等）



「社会を明るくする運動」開催セレモニー



つがる市の歴史にふれる旅（三内丸山遺跡）

### 3 諮問書

#### 諮 問 書

令和2年5月25日

白老町社会教育委員会  
委員長 穴 田 博 樹 様

白老町教育委員会  
教育長 安 藤 尚 志

#### 第3次白老町社会教育中期計画の策定について（諮問）

このことについて、次のとおり理由を附して諮問しますので、令和3年3月までに答申してくださいようお願い申し上げます。

#### 記

##### 1 諮問理由

白老町教育委員会では、時代の潮流や教育における今日的な課題等を的確に把握し、中期的な展望に立って教育施策を着実に推進するため、平成23（2011）年から2次にわたり社会教育中期計画を策定し、教育施策の総合的かつ計画的な推進に努めてまいりました。

平成28（2016）年に策定した第2次白老町社会教育中期計画では、「自ら学び、人格を磨く 創造力豊かな人材を育む 生涯学習の推進」を基本方針として、各種施策を推進しております。

この間、生産年齢人口の減少や急速な高齢化の進行、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新などにより、社会構造や雇用環境が大きく変化する時代を迎えている。また、人生100年時代の到来を見据え、多様なニーズに対応した学習環境の充実や主体的な学習機会を通して、その学びの成果を個人の生活や地域での活動に生かすことが求められています。

このような状況を踏まえ、地域課題に対応した社会教育活動をさらに推進するために、本町における社会教育の現状と課題を明らかにし、効果的かつ効率的な行政運営を図るための指針となる第3次の社会教育中期計画の策定が必要なことから、諮問いたします。

##### 2 計画の期間

令和3年度から令和10年度まで（8ヵ年）

## 4 答申書（案）

答 申 書 （ 案 ）

令和3年3月〇日

白老町教育委員会  
委員長 安藤 尚志 様

白老町社会教育委員会  
委員長 穴田 博樹

第3次白老町社会教育中期計画の策定について（答申）

白老町教育委員会から令和2年5月25日付けにて諮問を受けました令和3年度～令和10年度に係る第3次白老町社会教育中期計画の策定につきまして、慎重に審議を重ねた結果、次のようにまとめましたので答申いたします。

## 5 審議経過

期 日	審 議 等 の 内 容
令和2年5月15日(金)	第1回社会教育委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・白老町の社会教育について（前年度の成果報告）</li> <li>・白老町社会教育中期計画の策定に向けて</li> </ul> ※新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、書面会議
令和2年5月25日(月)	白老町教育委員会（諮問）
令和2年7月20日(月)	第2回社会教育委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政説明「白老町の社会教育行政の現状について」</li> <li>・委員からの質問及び意見聴取</li> </ul>
令和2年8月7日(金) ～8月31日(月)	社会教育関係団体からの聞き取り調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各団体の現状や悩み及び白老町教育委員会への要望</li> </ul> ※聞き取り調査を第3回社会教育委員会として位置付ける
令和2年9月30日(水)	第4回社会教育委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政説明「聞き取り調査の結果説明」</li> <li>・グループワーク「白老町の社会教育の現状と課題」</li> </ul>
令和2年10月28日(水)	第5回社会教育委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク「課題解決のための方策」</li> </ul>
令和3年1月20日(水)	第6回社会教育委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画案の審議</li> </ul> ※新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、書面会議
令和3年2月2日(火)	第7回社会教育委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・修正した計画案の承認</li> </ul>
令和3年2月5日(金) ～3月8日(月)	パブリックコメント
令和3年3月〇日(〇)	第8回社会教育委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックコメントを受けて、計画案の最終確認</li> </ul>
令和3年3月〇日(〇)	白老町教育委員会（答申）



	吉田美鈴	白老町スポーツ推進委員会	スポーツ
--	------	--------------	------

## (2) 事務局

職 名	氏 名
生涯学習課長（公民館長、図書館長、高齢者学習センター長）	池田 誠
生涯学習課参事（元陣屋資料館長）	武 永 真
生涯学習課生涯学習推進グループ・主幹（社会教育主事）	川崎 真也
生涯学習課主査（司書）	本間 敬子
生涯学習課生涯学習総務グループ・主査	葉 廣 照 美
生涯学習課主査（元陣屋資料館）	合田 静 恵
生涯学習課生涯学習総務グループ・主任	溝口 泰子
生涯学習課生涯学習推進グループ・主事	長尾 拓 哉
生涯学習課・生涯学習アドバイザー	山本 敏 之
生涯学習課・生涯学習アドバイザー	中村 等
生涯学習課生涯学習推進グループ・専任指導員	水上 智 美
生涯学習課生涯学習総務グループ・会計年度職員	佐々木 保
生涯学習課生涯学習総務グループ・会計年度職員	丸毛 美沙希